

問題行動等の未然防止に向けた学校と家庭との協働の在り方
～情報共有と行動連携による取組を通して～



Plan

中学校の実践

現状

◇自校生徒の実態

- 4年にわたり、生徒会が中心となって、いじめ0を目指した学校づくりに取り組んでいる。
- 生徒会活動を充実させ、互いに認め合う集団づくりを推進してきた結果、年を重ねるごとに、生徒の主体性が高まってきた。
- △生徒会役員と他の生徒との間に意識のずれが生じている。

研究テーマ

主体的に活動する生徒の育成

～生徒会を中心として、いじめ0の学校を目指す取組を通して～

<主な取組の柱>

- ・身近ないじめの問題に目を向け、いじめ0の学校を目指すことをテーマに、生徒会を中心として取組を計画・実践することで、主体的に活動する生徒の育成を図る。
- ・いじめの未然防止・早期対応に向けた学校と家庭・地域が協働する活動を工夫する。

計画

◇いじめ0の学校を目指した生徒会主催の取組の実施

- ・一年間を通じた、いじめ0の学校を目指すスローガンの策定
- ・前期生徒会、後期生徒会ごとの思いやりを育む活動の計画及び、実践
- ・取組内容について、家庭や地域に向けた生徒による情報の発信

◇いじめ0の学校を目指した学級活動の実施

- ・生徒一人一人に、自分自身の問題として考えさせる機会の設定

◇家庭や地域との協働を意識した取組の実施

- ・生徒のよさを共有したり、学校と家庭、地域が互いの考えを伝え合ったりするための取組の工夫

◇家庭での「いじめアンケート」の実施

- ・家庭においていじめについて話し合える機会とするとともに、保護者からの意見を吸い上げる機会として、「いじめアンケート」の家庭での実施

◇学校評価において、「学校と家庭との協働」に係る意見を集約

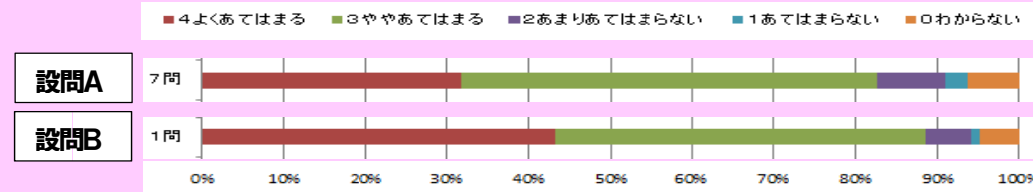
- ・「学校と家庭との協働」に関して意見を記入できる欄の設定

Check

学校評価の項目に位置付けるとともに、保護者や地域の思いを書いていただける「意見欄」の活用を図っています。

家庭・地域の学校評価等

設問A：お子さんには、相談できる仲の良い友達はいませんか。
設問B：学校は、部活動や生徒会活動に力を入れていると思いますか。



- 設問Aについては、8割の保護者が「よく当てはまる」「やや当てはまる」と肯定的に回答。多くの保護者が、相談できる仲の良い友達がいると感じている。仲の良い友達がいることで悩み事や相談事などを相談できる生徒が多い。
- 設問Bについては、9割近くの保護者が「よく当てはまる」「やや当てはまる」と肯定的に回答。多くの保護者が、部活動はもちろん、生徒会活動にも理解を示しており、生徒会活動の柱である「いじめ0の学校を目指す取組」についても、理解を示している。

生徒の変容



・いじめは、意外と自分に近いところにあると感じた。他人事だと思わず、日頃のささいなところから、相手の満足を意識したいです。
・「あたたかい」という言葉には、いろいろな思いが込められていると感じた。私も「あたたかい」行動ができる人になりたいです。
<生徒の声>

・学校便りや学級便りで、毎日の様子がとてもよく分かり読むことを楽しみにしています。子供と話すきっかけにもなっています。
・「学校が楽しい」と言っています。思春期の難しい時期に感謝です。
<保護者の声>



生徒会を中心としたさまざまな「いじめ0に向けた取組」によって、多くの生徒が、いじめをなくしたいと思える学校の雰囲気を作り上げることができました。
<教師の声>

Act

よりよい活動に向けて

◇ 積極的な発信

- ・ 生徒会の取組について、家庭や地域への発信をさらに積極的に行う。

◇ 家庭・地域との連携

- ・ 家庭や地域と手を取り合っ取組を行うことが希薄であったため、今後は、一層の充実を図っていく。



Do

学校と家庭の双方から、互いの生活の場で捉えた生徒についての情報を、風通し良く伝え合うことが大切だと思います。

主体的に活動する生徒の育成

～生徒会を中心として、いじめ0の学校を目指す取組を通して～

「いじめ0」は生徒会のスローガンであり、教師は、いじめはどの生徒にも起こりうるものと考え、対応しています。

学校と共にいじめを許さない気運を高めるため、学校いじめ防止基本方針について、家庭や地域にも周知しています。

情報共有

◇「いじめ0」の取組や主体的に活動する生徒の様子を伝える工夫

- ・学校新聞、学年通信、Web ページ等を通じて、生徒の主体的な取組の様子を発信した。その場合、事実のみではなく、家庭や地域に伝わりにくい部分（生徒の思いや、学校の願い、取組のつながり等）について意識して伝えている。

【発信した情報の例】 ※上段：学校新聞、下段：Web ページ

5月20日（金）に行われた学校集会では、平成28年度の生徒会年間スローガンを発表しました。全校からアイデアを募り、生徒会役員で話し合った結果、「学年を越えて団結し、全員でつくるあたたかい〇〇中」としました。このスローガンにける思いが生徒会役員の話からも伝わってきました。



2016年4月15日(金)
無言清掃伝達式

体育館で、3年生の代表が無言清掃の意義を話した後、それぞれ教室で、無言清掃の方法を3年生が1年生に丁寧に伝えました。無言清掃は、こうして新たな〇〇中の伝統として受け継がれています。



2016年9月5日(月)
生徒会プロジェクト「みんなで Say Hallo!!」スタート

「学年を越えて団結し、全員でつくるあたたかい〇〇中」というスローガン達成を目指して、廊下ですれ違う先生や校外からのお客様はもちろん、友達、先輩、後輩と進んで挨拶できることを目指します。挨拶が飛び交うあたたかい学校へとつなげていきます。

ウェブページでの発信は、情報の鮮度が大切。できるだけ早く発信することを心がけて、閲覧数を伸ばしました。

行動連携

◇家庭での「いじめアンケート」

- ・人目を気にすることなく記入できるよう、家庭に持ち帰らせて実施する。アンケートには保護者が記入できる欄も設け、必要に応じて記入していただく。
- ・「いじめ」について家庭での話題にしたり、保護者からの情報提供や、保護者の思いを知ったりする機会になることも期待し、実施した。
- ・生徒や保護者が安心して記入できるよう、相談や訴えのあった生徒が、他の生徒から特定されないよう、その後の対応について十分に留意することを生徒や保護者にアピールした。



【実際のやりとり】

連絡・記録

1/15 昨日は、お急い中連絡下さいましてありがとうございました。
友人の行方不明(言動が)あつたお話を伺い、うちの子供は
知らず、2人に相手を傷つけないかと心配です。
ですから、お礼言わないであげてください。
いつも、相手の気持ちにより、行動する様に子供には
言いませしたのが、ご配慮して下さりと思っております。
全曜日の件は、早く申し込めば良かったです。保護者
知もれなく仲良く笑顔で過ごして、学校生活の様子も少しづつ見えて、
いじめは早くお願ひ。お返事でお願いします。担任

◇日常的な家庭とのやり取りのツール「学習・生活ノート」の活用

担任は、保護者の思いを、頭ごなしに否定せず、くみ取る姿勢や、感謝の気持ちを伝える返信に心掛けています。伝えてよかったと思っていたような、保護者の自己有用感を高めることが大切だと思います。

◇地域との既存の会議の活用

- ・防犯サポートネットワーク会議において生徒の取組を紹介するとともに、本校の現状を伝え、協力を仰いだ。
- ・学校の取組に対し意見をいただくことでいじめ防止対策の検証に生かす。



【シンボルマーク】

生徒から募集した、いじめ防止のシンボルマークと、これまでの生徒会主催の取組を印刷したクリアファイルを作成し、家庭や地域に配付しました。



◇文化発表会での生徒会による「いじめ防止アピール」

- ・保護者や地域の皆さんに参観していただける行事において実施することで、広く周知を図った。



中学校でどのような取組を行っているのか知ることができました。子供たちの、本当にいじめをなくしたいという思いが伝わってきました。いじめ0の学校になるように、期待しています。
＜保護者の声＞